

南原中だより

米沢市立南原中学校

学校通信

2019. 3. 16

平成30年度 第63回 米沢市立南原中学校卒業証書授与式 挙行

～ 卒業証書授与式 式辞より ～

なでらの山すそも例年より早い雪解けを迎え、小川のせせらぎが春の訪れを感じさせる今日の良き日、米沢市長 中川勝様、米沢市議会議員 皆川真紀子様、本校父母と教師の会会長 安部直人様をはじめ、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに第63回卒業証書授与式を和やかに挙行できますことを、心より厚くお礼を申し上げます。

本日、卒業の日を迎えられた28名の卒業生のみなさん、本当におめでとうございます。先ほどもみなさんにお渡しした卒業証書は、中学校の全課程を修了した証です。

3年間、自分自身の努力もさることながら、ご家族の温かい励まし、地域の方のご支援、先生方のご指導によってたくましく成長し、今日の日を迎えたわけです。みなさんを支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れてはなりません。

皆さんとの思い出はたくさんありますが、何と言ってもNo1は昨年度の東京への修学旅行です。サンシャイン60で初めてバーチャルリアリティを体験し、ギャーギャー騒いでいる皆さんの姿を笑って見ていたのに、実際に体験すると自分もギャーギャー言ってしまう、皆さんに笑われたこと。「校長先生、晴れ男だぁ」と言われて得意になっていたなら、「ライオンキング」の劇場でどしゃぶりに会ってずぶ濡れになったこと。たくさんのことがありましたが、いつも最後は皆さんの屈託のない笑顔に救われました。その素直さとやさしさが、皆さんの宝であり「南中プライド」だと私は思います。

また、今年1年間は、南原中学校最後の年ということで、「閉校パワー全開」とたくさんの方々から称賛され、部活動や生徒会活動、体育祭や文化祭などでリーダーシップを存分に発揮し、62年の歴史に幕を閉じるために力を尽くしてくれたことに、心から「ありがとう」の言葉を伝えたいと思います。いつまでも後輩たちの良き道標となり、素晴らしい先輩であってほしいと思います。そして、4月からはそれぞれ自分の選んだ進路で頑張ってほしいと思います。

今まで共に歩んできた15年間、初めて仲間と離れそれぞれの道を歩き始めるみなさんの門出にあたり、「成功は99%の失敗に支えられた1%だ」という言葉を贈ります。

この言葉は、何度も皆さんにお話しした「竹にはフシがある。フシがあるからこそ雪にも負けない強さを持つ」という言葉と同じ、本田宗一郎氏の言葉です。

竹のフシとフシとの間が成長するように、失敗を糧として人は成長し、失敗を生かして成功する経験が多いほど、強くてしなやかな人間になるのだと思います。人生を振り返ってみると私もそうですが、皆さんが今まで生きてきた15年間は、どちらかと言うと成功よりも失敗したことのほうが多かったのではないのでしょうか。しかし、失敗は皆さんにとってマイナスにばかりなっていたわけではないと思います。失敗経験のほとんどが「次は失敗しない」という新たな決意としてプラスに働き、失敗を乗り越えてきていると思います。

皆さんの長い人生、これからも成功することばかりではないと思います。そんなとき、失敗経験をプラスに変えて乗り越え、最終的に人生の成功者となることが、皆さんを今まで大切に育ててきてくださった家族・地域・先生方への恩返しだと思います。失敗を恐れることなく、これからもたくさんの試練を乗り越え、自分を成長させてください。みなさんがこれからも失敗を恐れることなく、益々活躍することを期待します。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。9年間の義務教育を終えての新しい門出を心からお喜び申し上げます。3年間にわたり、皆様のかげがえのないお子様をお預かりして、教職員一同努力してまいりました。至らない点多々あったことと思いますが、常に本校の教育に対し温かいご理解とお力添えをいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用のところご臨席いただき、誠にありがとうございました。本校は来年度より米沢市立第二中学校との統合を迎えます。しかし、南原の子どもたちはどこに行っても南原地区の宝物です。今後とも一層のご指導、ご激励を賜り、温かく見守りくださいますようお願い申し上げます。

卒業生のみなさん、「成功は99%の失敗に支えられた1%」です。これからも失敗を恐れず、プライドを大切に夢に向かって突き進んでください。みなさんの前途に幸多かれと祈り、式辞といたします。

平成31年3月16日

米沢市立南原中学校長 富所 謙一



生涯の友と共に「南中プライド」を胸に巣立つ「南中最後の卒業生」28名(+担任)

ご卒業おめでとうございます！